

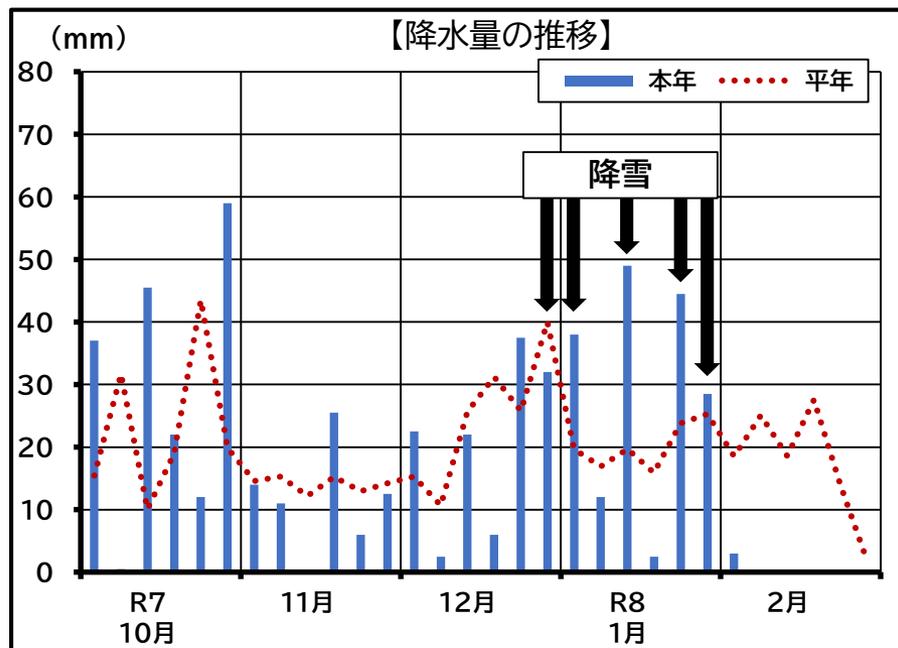
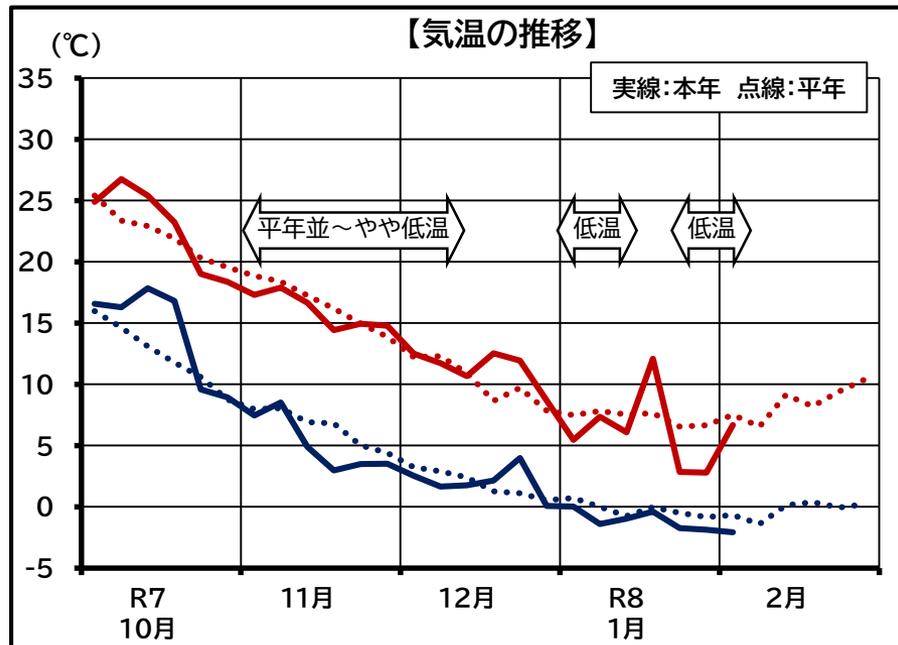
# 小麦「びわほなみ」栽培研修会

- 気象
- 生育状況
- 今後の栽培管理

湖北農業農村振興事務所 農産普及課

# 気象

- 播種時期である11月は断続的な降雨があり、播種作業が遅れたほ場があった。
- 適期に播種されたほ場では、低温や1月の降雪により、生育が停滞している。
- 播種が遅れたほ場では低温や断続的な降雨、降雪により生育が遅れている。



# 生育状況(2月初めの生育)



長浜地域(11月15日播き)

茎 数:約250本/m<sup>2</sup>

基 肥:麦パンチ

40kg/10a

(窒素成分:14kg/10a)

播種量:8kg/10a

穂 肥:麦用セラコートR2500

20kg/10a

(窒素成分:5kg/10a)

窒素成分の合計:19kg/10a

# 生育状況(2月初めの生育)



伊吹地域(11月7日播き)

茎 数:約570本/m<sup>2</sup>

基 肥:麦パンチ

40kg/10a

(窒素成分:14kg/10a)

播種量:9kg/10a

穂 肥:麦用セラコートR2500

20kg/10a

(窒素成分:5kg/10a)

窒素成分の合計:19kg/10a

# 生育状況(2月初めの生育)



近江地域(11月12日播き)

茎 数:約440本/m<sup>2</sup>

基 肥:麦パンチ

30kg/10a

(窒素成分:10.5kg/10a)

播種量:9kg/10a

穂 肥:化成201 20kg/10a

(窒素成分:4kg/10a)

窒素成分の合計:14.5kg/10a

# 生育状況(2月初めの生育)

※後期重点施肥



近江地域(11月5日播き)

茎 数:約850本/m<sup>2</sup>

基 肥:国産化成肥料444  
15kg/10a

(窒素成分:2.1kg/10a)

播種量:9.5kg/10a

穂 肥:尿素 25kg/10a  
(窒素成分:11.5kg/10a)

窒素成分の合計:13.6kg/10a

# 今後の栽培管理(排水対策)

- 今の時期に湿害を受けると茎数が十分確保できず、穂肥をしっかりと効かせられません。
- 水口(尻水戸)周辺や排水溝の点検をし、滞水している場合は速やかに溝さらえ等を行いましょう！



# 今後の栽培管理(穂肥施用)

- 適期に播種されたほ場は、2月中下旬(主茎長が2cm程度)に穂肥を施用しましょう。
- 施用時期が遅れると、穂数減少や遅れ穂の発生リスクが高まります。
- 積雪がある場合は、融雪後、排水対策を実施したうえで速やかに施用しましょう。

## パターン①

【基肥】麦用セラコートR2500  
または 国産化成肥料444  
(5.6~7.5kgN/10a)

【穂肥】麦用セラコートR2500  
40~50kg/10a(現物)  
(合計17.5~18kgN/10a)

## パターン②

【基肥】麦パンチ(14kgN/10a)  
【穂肥】麦用セラコートR2500  
20kg/10a(現物)  
(合計19.0kgN/10a)



↑主茎長2cmの株

※穂肥を一度に施用できない場合は分施する。  
(2月末~3月上旬に完了するように)

# 今後の栽培管理(穂肥施用)

※後期重点施肥

【基肥】国産化成肥料444

(2.1Nkg/10a)

【穂肥】麦用セラコートR2500

60kg/10a(現物)

(合計17.1kgN/10a)

【基肥】国産化成肥料444

(2.1Nkg/10a)

【穂肥】セラコートRスカイ

35kg/10a(現物)

(合計17.5kgN/10a)

穂肥時期:主茎長が2cm程度の時  
(一度に施用できない場合は分施する。)

# 今後の栽培管理 (雑草対策・・・エンドウ類)

- 2月下旬～3月上旬にほ場を確認し、発生が多いほ場では、3月上旬のカラスノエンドウが生え揃った時期に、除草剤(MCPソーダ塩)を散布する。



成植物



幼植物

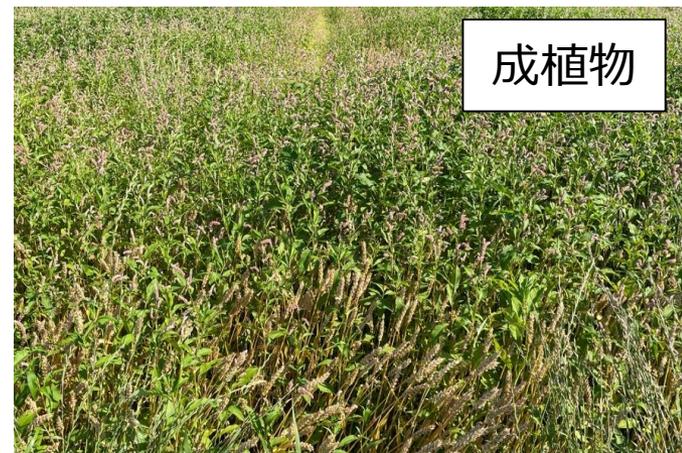
ほ場内で繁茂したカラスノエンドウ

カラスノエンドウは麦子実と混じると選別が困難となるため、特に注意が必要。

# 今後の栽培管理 (雑草対策・・・タデ類)

- 2下旬～3月上旬にはほ場を確認し、発生が多いほ場では、3月上旬に除草剤(ハーモニーDFやバサグラン液剤等)を散布する。

※播種時に「ハーモニー細粒剤F」を使用する場合は、使用回数の上限により「ハーモニーDF」を使用できないため注意



ほ場内で繁茂したタデ

# 今後の栽培管理 (雑草対策・・・畦畔雑草)

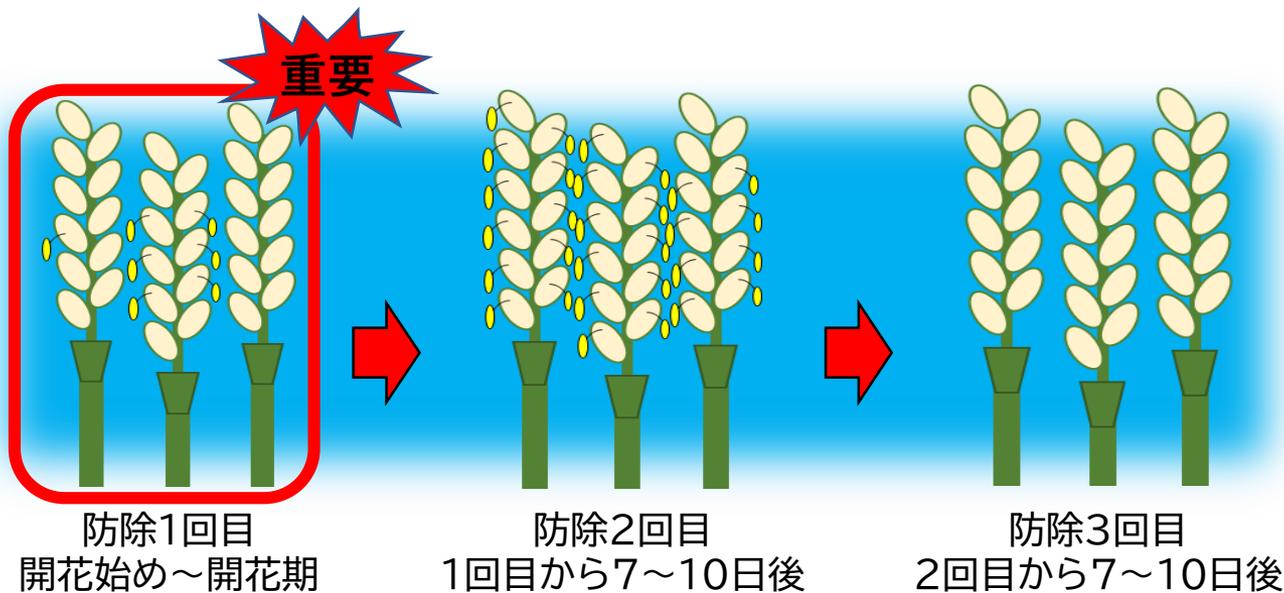
- ほ場の現状を確認し、雑草が見られる場合は草種に応じた除草剤を散布する。
- 大半は畔周辺や畝肩などから、雑草が侵入するため、本格的にはほ場内に侵入する前に非選択性除草剤等(ほ場内の周縁部登録剤)で防除する。(麦生育中も可)
- 種子で増殖する雑草が多いため、種子を作らせない管理が必要



# 今後の栽培管理(赤かび病防除)

- 「びわほなみ」は赤かび病に弱いため、必ず2回防除を行う。

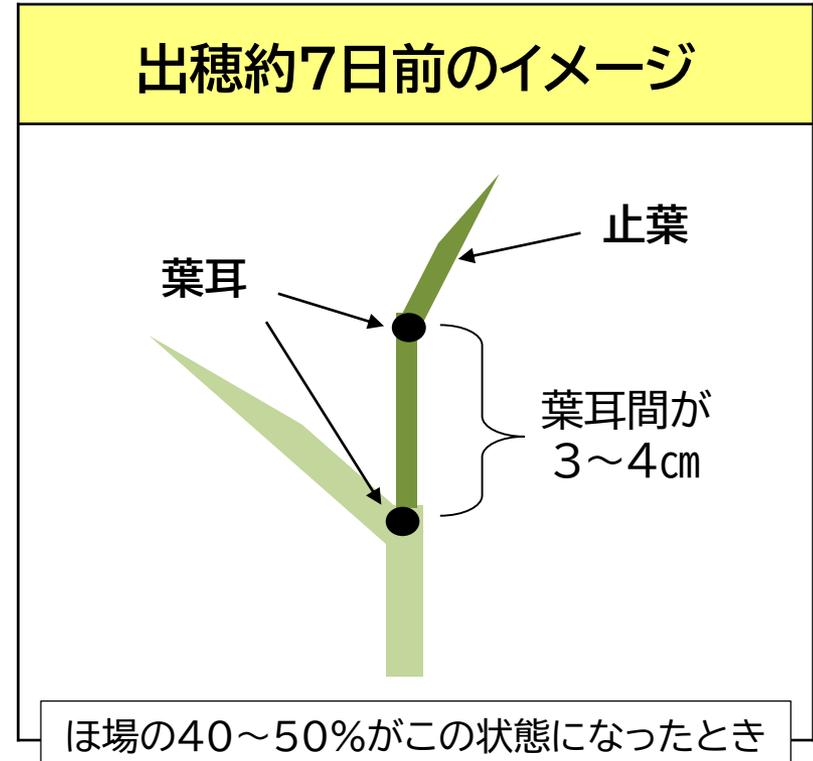
(注意報や気象状況によっては3回目を実施)



感染した「びわほなみ」の穂  
(滋賀県病害虫防除所提供)

# 今後の栽培管理(実肥施用)

- 4月の止葉出葉期～穂揃い期の生育をよく観察し、葉色の低下がみられた場合は、出穂7日前追肥および出穂10日後追肥を施用(N単肥可)し、収量低下の防止、タンパク含量の向上を図る。



(例) 出穂7日前 2kgN/10a  
+  
出穂10日後 2~4kgN/10a

※湿害等で穂数が少ないほ場は追肥量を減らす

# 今後の栽培管理(まとめ)

- 生育不良とならないように排水対策を徹底し、湿害の発生を防ぐ。(穂肥の効果をもとめるために重要)
- 適期播種のほ場では、2月中下旬の穂肥をしっかりと効かせ、生育後半の生育を良くして収量の確保を図る。
- 麦の生育期にも、雑草の発生に応じて除草剤による防除を実施。
- 出穂7日前追肥および出穂10日後追肥により、収量低下の防止、タンパク含量の向上を図る。